



生後3ヶ月から始める
しつけマニュアル(下)

お買い上げしていただき、誠にありがとうございます。

読んでいただき、愛犬を幸せに暮らせる環境の少しでもお手伝いになればと思います。また、いつか家族に迎えると考えていらっしゃる方にも今後のお役に立てればと思います。そして、動物関係のお仕事をしている方、その他犬に対する知識を取り入れていただき、手助けになればと願っております。

～目次～

「犬文化との共存」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03

- ・ 犬同士のしつけ方法から学ぶこと。
- ・ 人間社会の中に犬文化を取り入れている現状の解説。
- ・ 増加している犬の精神年齢の遅れとは。
- ・ NOを伝えるタイミングと見極め方法。
- ・ 犬は人間の行動を観察する賢い動物。
- ・ 問題行動の始まりと激化は飼い主の責任。

「正しいYES・NOの伝え方」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- ・ 犬の行動で誉めとケアを変える方法。
- ・ 誉めることは叱ることよりも大切に難しい。
- ・ しつけは家族の協力が必要。
- ・ 飼い主は召使い。その関係で本当に幸せ？

「ずっと家族でいたいから…の第一歩を踏み出そう」・・・・・・・・ 18

- ・ 犬に気持ちを伝える自国の言葉の大切さ。
- ・ 誉めてコミュニケーションを取る方法
- ・ 明るい子には明るく誉める。それは逆効果かも…。正しい誉め方と接し方。
- ・ 1つの方法に縛られず、視野を広げるしつけ方法。

【犬文化との共存】

正しい罰の与え方というのはどういう方法か。

まず、犬の文化から掘り下げてお話ししましょう。

昔、犬は野生の動物でした（そりゃそうですね）

いきなり人間の家の中で共存したわけではありません。

野生の犬から徐々に時間をかけて人間に近づき、家畜化していき、家族の一員になったのです。

その昔からの本質、本能と言うのは完全に今の犬たちの中で失っているわけではありません。

今の犬たちのほとんどは人間社会に入り込み、しつけは飼い主である人間が行っています。

そして、野生時代の犬たちも人間ではなく【母犬】または【兄弟犬】からしつけ、教育を受けて育ってきています。

たまにですが、野生動物を特集した番組をテレビでやっておりませんが、そのときに教育をしているシーンもちらほら観ることがあります。

その教育、しつけというのは、母犬、兄弟犬から怒られて【罰】を受けています。

そして、教育された犬はそれを認識し、怒られたことをしなくなります。

